OPINION

中部経済新聞

日本への期待 世界各地から

（編集・翻訳 リーム中産連）

⌘78

トランプ氏大統領再選の可能性

米国から

ナビゲーター

現地24日のサウスカロライナ州予備選に続き、3月5日にスーパーチューズデーを迎える米国大統領予備選を前に、米国人に見解をただしたところ、返信があったので紹介する。日本からの依頼は2月8日、返信は11日で、24日の結果はまだ不明の時期である。われわれ一般的な日本人の見解としては、次期米国大統領選挙の結果いかんでは、世界の政治的な不安定が高まり、場合によっては日本を取り巻く東アジアでの紛争につながったり、世界的な経済不安が増加するというものであろう。返信は「お詫び」から始まっている。

◇　◇　◇

せっかくのご要望をがっかりさせるのは好まないが、トランプ氏に関する文章を書くのは、非常に物議を醸しだす話題であり、正当に評価するためには多くの労力を必要とする。米国では、一般的に次のような説明がなされる。少しでもお役に立てれば幸いだ。

日本では、多くの人がトランプ氏と故安倍首相を結びつけるのではないか。しかし安倍首相はより誠実で、日本のための強力な「ナショナリスト」だったのでは。一方、トランプ氏は「自己奉仕的」で、自分以外の誰のことも国のことも考えていない。米国民の多くは、彼が犯したさまざまな罪で有罪になることを願っているが、どうなることやら、というのは個人的な見解であって、より客観的には以下のようになるのではないか。

トランプ氏再選の可能性は、今やアメリカで非常に物議を醸し、分裂的な話題となっている。

結論としては、トランプ氏の大統領復帰の可能性が出てきたことで、アメリカ人の間では政治を超えた議論や討論が巻き起こっているものの、米国人は多様な意見や懸念を抱いているということだ。リーダーシップ・スタイルや政策に熱狂する人々から、誠実さや社会的結束への影響を疑問視する人々まで、その見解は多岐にわたる。このような幅広い視点を認めることで、今回の選挙戦を見守る必要があるということだ。

いうまでもなく一部では、政治家としてのトランプ氏に対する懐疑的な見方が支配的である。公平で公正なアメリカというビジョンに合致せず、分裂を招くような暴言や物議を醸す発言は、批判と支持の両方を集め、政治情勢は大きく二極化している。

他方で、トランプ前大統領を支持し続けている人々は、よく経済政策、規制緩和イニシアチブ、「アメリカ第一」を称賛の理由に挙げる。率直で力強いリーダーシップなどが、自分たちの心に響くと強調する。

だが多様な意見が存在し、広く多様な米国社会では、トランプ氏の復帰の可能性に対する意見は大きく分かれるのが現状である。米国人の見方は、社会文化的背景に影響されがちでもある。地域や人種、宗教、ジェンダー、社会経済的要因の違いを超えて、多様な見解を探る必要があるだろう。より包摂的で寛容な社会を確保するために、過去から学ぶことの重要性が強調されるべきであろう。これが、高い見識を持つ友人と筆者との意見交換から紹介できる部分である。

【ある米国人、リーム中産連】

（月曜日に掲載）